

花火って、なんであるの？



これは、花火の物語。

ハナビリウム

HANABIRIUM

声の出演 ヒバナ●太田葵／ともる●北原十希明／けむりのおじいさん●田中泯

企画・製作・著作●株式会社日本橋丸玉屋

花火撮影・編集●アクアジオグラフィック株式会社 立体音響録音●ヤマハ株式会社 CG/VFX●株式会社オムニバス・ジャパン プロデュース●株式会社マアルト
配給●株式会社五藤光学研究所 2019年/25分 ©日本橋丸玉屋



CULSPO
MATSUYAMA CULTURE & SPORTS

松山市総合コミュニティセンター コスモシアター

上映期間：令和8年7月18日(土)～令和9年7月16日(金)

入場料金：大人480円 小人240円(4歳～中学生)

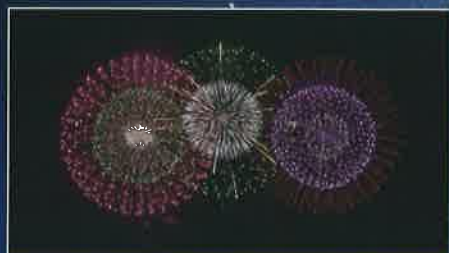
上映スケジュールはお電話にてお問合せいただくか、コスモシアターホームページでご確認ください。

〒790-0012 松山市湊町7丁目5番地 TEL:089-943-8228 休館日：月曜日(祝日・夏休みをのぞく)・年末年始

コスモシアター
ホームページ▶



360度、ぐらりと花火に包まれる 新感覚のプラネトリウム体験！

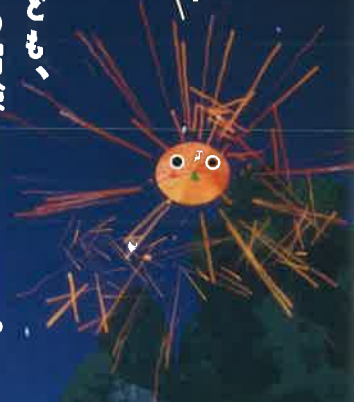


主人公・ヒバナは、将来花火になるための学校に通っている。でも、実は落ちこぼれ。今日も学校をさぼって森の中へ行くと、そこで、謎めいた「けむりのおじいさん」と出会う。「ボク、自信がないんだ。友達みたいにきれいな花火になんかなれないよ。無理なんだ。」そんなヒバナを見かねたけむりのおじいさんは、色とりどりの花火のしくみや魅力について、ユーモアたっぷりに語りはじめる。その世界に引き込まれるヒバナは、次第に、知られざる花火の歴史にも向き合っていくことに……。果たしてヒバナは、どんな成長を遂げられるのか？

ものけむり

花火のことも、「ヒバナ」の冒険

なんて僕、
花火になんか
ならなきゃいけないんだ！



花火は、
何でできているか
知っておるか？

みりよく
その1

花火の真下！ 奇跡の実写映像

全国各地で毎年1,000箇所以上も開催され、述べ7,000万人もの人々が足を運ぶ花火大会は、日本でもっとも愛されている催事のひとつです。この作品では、日本の代表的な花火の数々はもちろん、フルドーム用に特別に設計された、360度全方位から5000発が打ち上がる最先端の演出花火<hanabi-rium360R>を、まるで星空を見上げるように鑑賞することができます。保安上の理由から、花火師以外は決して入ることのできない「花火の真下」からの視点をとらえた、驚きの完全実写映像。風にそって繊細にたなびく煙や、立体録音による迫力満点の打ち上げ音響も楽しめます。さあ、誰も体験したことのない花火の特等席へようこそ！



みりよく
その2

花火の「星」に込められた技と文化、歴史の物語

実は、花火の中にも「星」があります。花火玉の中に並んでいる、火薬と金属などの薬品をまぜた小さな丸い粒を、花火の世界では「星」と呼んでいるのです。熱する元素によって異なる色を示す「炎色反応」を巧みに利用し、「星」の並べ方やタイミングによって夜空にさまざまなかたちを描き出す技術。花火をサイエンスやアートの視点から見直してみると、新しい発見に満ちています。さらに、江戸幕府・徳川家康の時代にまでさかのぼる日本の花火の歴史。そこには「火薬」をめぐる、大きな転換点があったことを知っていますか？ 400年以上にわたり、花火師たちが命をかけてつないでできた物語。子どもから大人まで、花火を通して大切なことを学べる作品です。

ハナビリウム
HANABIRIUM

総合監修●小勝敏克／企画・演出●岩野成
制作・演出●島野玲、島田清夏／プロデューサー●森田菜絵／脚本●新井章仁
映像ディレクター●河上裕紀／花火撮影・編集●佐藤 宏、春日賢一
音楽●斎藤雅己／サウンドデザイン●河村大／宣伝美術●真家亜紀子
企画・製作・著作●株式会社日本橋丸玉屋